

研究主題：主体的、対話的で深い学びの実現を目指して（3年次）

# ~TANKYU~

谷地南部小学校  
校内研究だより  
2023. 7. 27  
No.25 文責 菅野

第5学年 算数科 小数の倍

## 5年 授業研究 成果と課題

### 個人研究のテーマについて

◇友だちとかかわり、自信をもって自分を表現できる授業や学級づくり

- リボンやホワイトボード、ノートを使いながら自分の考えを相手に伝えている子がいたので良かった。
- 「わからない。」「教えて。」と自分から聞ける子がいた。
- △ずっと受け身になってしまっている子がいる。

### 授業の構成・流れについて

◇学習形態の工夫

- 実際にリボンがあると、子どもはイメージしやすくてよかった。
- △全体で立式して、根拠を見つける活動が最初にあってもよかった。
- △「比べる数÷もとにする数」というような言葉の式を教えることも大切。
- △教科書の数直線の図を見ると「分かった。」という子どもがいたので、見方・考え方につながるような物を全体で見せることが有効だったのではないか。
- △問題文をヒントにして□を使ってかけ算の式を立てることを大切にさせたい。その式を基に、□を求める式を考えるとわかりやすい。

### 【秋葉指導主事のご指導から】

- ・1人で解く時間が少なかったので、1人でじっくり考える時間を確保してあげることが大切である。  
→自分の考え方を整理したり、どこでつまずいたか自分で気づいたりする時間になる。
- ・グループで活動する必要感を子どもに持たせるためには、目的をもって相手を選んで交流できるようなツール等を準備しておくことが大切である。
- ・学力が低い子は、実際にリボンを切って「○個分と少し」だということを体験させることが有効である。一方で学力が高い子は、いろんなリボンの問題に挑戦できるような、繰り返して解ける問題や環境を整えると良い。
- ・既習がつまずいていれば、復習する必要がある。どれくらい身につけているか、どこを補充するべきかまず知ることが大切である。